

災 救 通 信

平成27年
2月1日

号 外

発行

天理教
災害救援
ひのきしん隊
北海道教区隊

冬季平時訓練実施 南空知・空知支部

雪国ならではの悩みの種、除排雪の問題。特に様々な理由から独居老人となられた方の切なさは想像を超える。以前に近所に暮らしていたご老人は雪や氷が自宅の屋根にたまると、辛くて辛くて泣いていたことを思い出されると、こうした方々へはもちろん、地域関係各所の方々にも大きな喜びを感じていただいている「独居老人宅の除排雪ひのきしん」を冬期間の訓練として行っている、南空知支部隊（寺澤信彦隊長）と空知支部隊（坂本忠則隊長）の活動を報告させていただきたい。



南空知 寺澤隊長



空知 坂本隊長



南空知支部、ひのきしん参加者の面々。渋い人もいます。

南空知支部では1月30日～31日の両日に亘って三笠市・岩見沢市で実施。



今年も三笠市社会福祉協議会のご協力の下、ひのきしんを実施させていただきました。例年より雪は少なかったですが、天候にも恵まれ事故などもなく勇んでつとめさせていただきました。参加者は30日、隊員22名、婦人会16名、31日は隊員16名、婦人会13名で行いました。毎年の事ではありませんが、どこも作業を喜んで下さり、終了後の笑顔が励みになっています。今後にもおかげ・おたすけの一助として、続けていければと思っております。

(寺澤)

空知支部では1月31日美幌市、2月1日月形町にて冬季
 平時訓練を実施。

天気予報では両日共に大荒れの予報が出ていたが、天候にも恵まれ「冬季平時訓練」が実施された。初日は美幌市の社会福祉協議会より依頼された独居老人宅7軒を除雪。大型の投雪機3台がフル回転し、次々と雪が片付けられていった。この日は実動隊員32名、生活班（婦人会）18名、少年会6名の合計56名がひのきしんを実施した。



朝礼を行い、作業の確認を行う。この時間が大切です。

また、翌日は月形町に会場を移し集合場所となった樺戸分教会には朝早くから次々と参加者が集まってきた。受付を済ませ班編制が発表され朝礼後、打ち合わせを終え3班に分かれての出動となった。早速、現場の様子を伺うと感動が一段と強まった。独居老人宅へあいさつをする時、そのままお道の話が進められたり、大人達に混じって少年会員達が小さなスコップを片手にお手伝い。また、びっくりするような高い屋根へ命綱を付けて屋根の雪下ろしを行っている光景が、一段



見事に連携の取れた除雪作業。初心を忘れず安全作業！



高所に挑む坂本支部隊長。渋い！

と感動と驚きを受けた。さすが29回目（昭和60年から降雪量の少ない時を除く毎年実施）の実施がものを言う。除雪後はよろづよ八首を現場で奉唱し御礼をさせていただいた。なんと教祖130年祭の年に記念の30回目を迎える。地域に根ざして活動を積み重ねている姿は、最高のひのきしんであり、大きなをいがけとなつていると確信させていた。月形地区の参加者は実動隊員38名、生活班（婦人会）10名、少年会10名の合計58名がひのきしんを実施した。

（レポート奥村教区隊長）